

■ 概況

4/7～4/13のNYMEX・WTI先物市場は、94.29～104.25ドルの範囲で推移した。

4月14日は、翌日からの3連休を控え、ポジション調整の売り買いが先行したが、ウクライナ紛争の長期化予想が高まる中、欧州連合（EU）がロシア産原油の段階的禁輸を検討中との報道で、先行き需給ひっ迫の懸念から、続伸した。また、ペーカーヒューズ社発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比2基増の548基で4週連続の増加。5月限の終値は前日比2.70ドル高の106.95ドル。

週末15日は、グッドフライデー（聖金曜日）のため休場。

連休明け18日は、リビア国営石油が首相退陣を求める抗議行動の激化により同国最大のシャララ油田からの原油輸出に関する不可抗力条項を宣言し、同国の供給懸念が高まり、続伸した。ウクライナ紛争の激化・長期化観測も値上がり要因。5月限の終値は前営業日比1.26ドル高の108.21ドル。

19日は、国際通貨基金（IMF）が世界経済見通しを発表、2022年の世界経済成長率を3.6%と0.8ポイント下方修正、石油需要も減速するとの懸念から、5営業日ぶりに反落した。翌日発表の米国原油在庫の積み増し予想も値下がり要因。5月限の終値は前日比5.65ドル安の102.56ドル。

20日は、ウクライナ情勢に不透明感が増す中、先週末時点の米国の原油在庫は予想外の取り崩しとなり、小幅に反発した。5月限の終値は、前日比0.19ドル高の102.75ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（6月渡し）は、4月7日～13日の間、97.20～102.60ドルの範囲で推移した。4月14日105.30ドル、15日108.00ドル、18日108.90ドル、19日108.90ドル、20日105.60ドルで推移した。

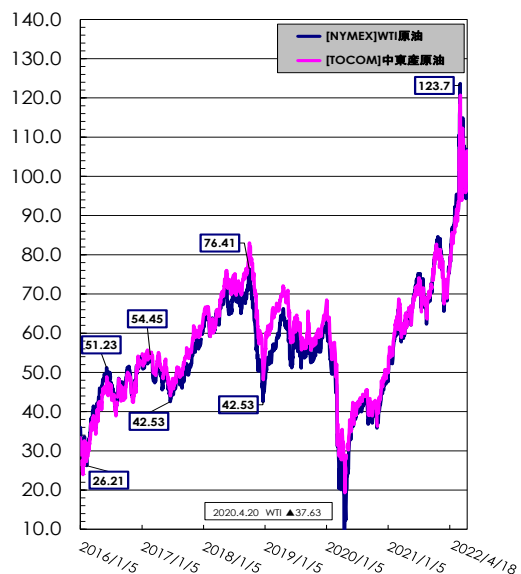
為替は、4月7日～13日の間、123.66～125.62円の範囲で推移した。4月14日125.58円、15日126.37円、18日126.68円、19日127.36円、20日129.43円で推移した。

財務省が4月20日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、3月下旬の原油輸入平均CIF価格は、68,466円/klで、前旬比1,825円高、ドル建て93.10ドルで前旬比1.25ドル高、為替レートは1ドル/116.92円。また、同日発表の貿易統計（速報・旬間）によると、3月の原油輸入平均CIF価格は、66,887円/klで、前月比4,276円高、ドル建て91.79ドルで前月比5.10ドル高、為替レートは1ドル/115.85円。

そのような中で、4月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値下がり、軽油も同0.5円の値下がり、灯油は4.0円の値下がり（18%ベース）であった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は3週ぶりの値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は173.5円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は限度額の25.0円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	4/10～4/16	2,978 ▲114	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.4 ▲3.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	4/16	9,628 ▼-468	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	4/18	106.53 ▲10.33	▲ 42.6
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	4/18	108.21 ▲13.92	▲ 44.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月下旬	93.10 ▲1.25	▲ 31.45
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	68,466 ▲1,825	▲ 26,941
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	116.92 ▼-1.58	▼ -9.84
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/18	127.68 ▼-2.05	▼ -18.02

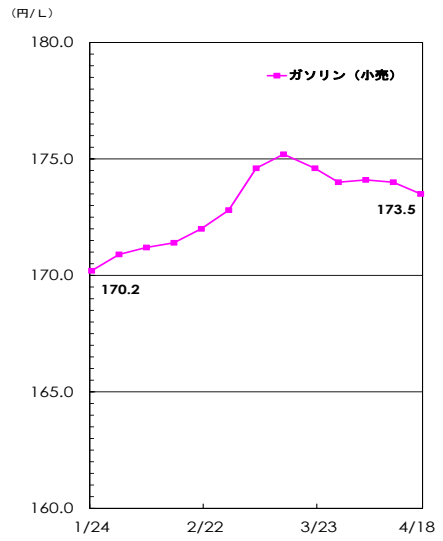
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/10 ~ 4/16	856 ▲ 40	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	752 ▲ 4	▲ -	
	輸出	"	33 ▼ -34	▼ -	
	在庫	4/16	1,598 ▲ 70	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/12 ~ 4/18	78.8 ▼ -1.6	▲ 19.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/12 ~ 4/18	79.3 ▲ 3.3	▲ 20.8
		(TOCOM/中部)	4/18	80.2 ➡ 0.0	▲ 20.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/18	173.5 ▼ -0.5	▲ 23.1	

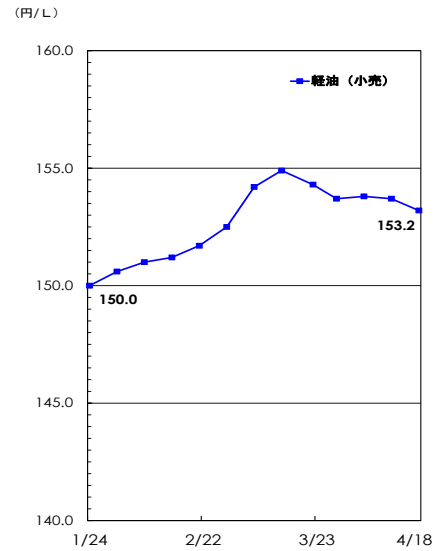
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

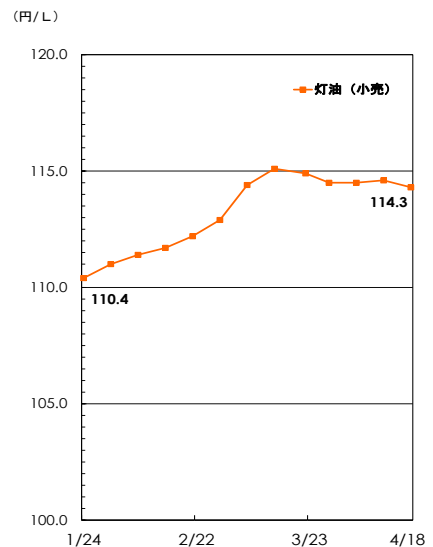
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/10 ~ 4/16	694 ▲ 6	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	680 ▲ 67	▲ -	
	輸出	"	93 ▲ 45	▲ -	
	在庫	4/16	1,116 ▼ -79	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/12 ~ 4/18	79.0 ▼ -2.0	▲ 18.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/12 ~ 4/18	91.3 ▼ -0.6	▲ 28.6
		(TOCOM/中部)	4/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/18	153.2 ▼ -0.5	▲ 22.7	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	4/10 ~ 4/16	191 ▼ -36	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	144 ▼ -35	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	4/16	1,120 ▲ 46	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	4/12 ~ 4/18	78.8 ▼ -1.7	▲ 18.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	4/12 ~ 4/18	79.3 ▼ -1.2	▲ 22.7
		(TOCOM/中部)	4/18	79.8 ▼ -0.2	▲ 20.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/18	114.3 ▼ -0.3	▲ 22.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月20日のNYMEX先物原油は、ウクライナ東部への攻撃が本格化、先行き不透明感が高まり、相場に方向感が欠ける中、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末(15日)時点の米国の石油在庫週報で、原油在庫が800万バレル減と市場予想(250万バレル増)に反する取り崩しとなったことから、小幅に反発した。ただ、原油の在庫減は、原油の不足する欧州向けの輸出増加によるものと見られている。製品在庫も、ガソリン・中間留分ともに取り崩しであった。5月限の終値は前日比0.19ドル高の102.75ドル、6月限は0.14ドル高102.19ドルだった。

EIAによると、4月18日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.5セント値下がり(1ガロン4.066ドル(137.0円/㍓))、

ディーゼルは同2.8セント値上り(5.101ドル(171.8円/㍓))となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年4月10日～4月16日に休止したトッパー能力は34.7万バレル/日で、前週に対して5.4万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は297.8万klと、前週に比べ11.4万kl増加。前年に対しては38.3万klの増加。トッパー稼働率は77.4%と前週に対して3.0ポイントの増加、前年に対しては9.9ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.0%増、ジェット/13.2%増、灯油/15.8%減、軽油/0.9%増、A重油/0.8%増、C重油/6.2%増。今週のC重油の輸入は5.6万kl(前週比5.1万kl増)。軽油の輸出は9.3万kl(前週比4.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、灯油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は75.2万kl(対前週0.5%増)と2週振りに増加した。ジェット4.1万kl(対前週29.9%減)、灯油14.4万kl(対前週19.3%減)、軽油68.0万kl

(対前週11.0%増)、A重油19.2万kl(対前週18.7%増)、C重油20.5万kl(対前週94.3%増)。

(単位:千KL)

	今週 (4/10 ~ 4/16)	前週 (4/3 ~ 4/9)	前週比	
ガソリン	752	748	▲ 4	(1%)
ジェット燃料	41	58	▼ -17	(-29%)
灯油	144	179	▼ -35	(-20%)
軽油	680	613	▲ 67	(11%)
A重油	192	162	▲ 30	(19%)
C重油	205	105	▲ 100	(95%)
合計	2,014	1,865	▲ 149	(8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

4月16日時点の在庫は、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で減少となった。

ガソリンは159.8万kl、前週差7.0万kl増。前年に対しては24.8万kl少ない。

灯油は112.0万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては34.2万kl少ない。

軽油は111.6万kl、前週差7.9万kl減。前年に対しては48.9万kl少ない。

A重油は68.2万kl、前週差0.9万kl増。前年に対しては9.2万kl少ない。

C重油は151.8万kl、前週差5.5万kl増。前年に対しては35.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (4/16)	前週 (4/9)	前週比	
ガソリン	1,598	1,528	▲ 70	(5%)
ジェット燃料	742	691	▲ 51	(7%)
灯油	1,120	1,074	▲ 46	(4%)
軽油	1,116	1,195	▼ -79	(-7%)
A重油	682	673	▲ 9	(1%)
C重油	1,518	1,463	▲ 55	(4%)
合計	6,776	6,624	▲ 152	(2.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

4月12日～18日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の原油コストは、4.0円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額20.3円を加えたコスト上昇額24.3円に、補助金25.0円が支給されることから、次週(4/21～4/27)の元売会社の実質的な卸価格は0.7円の値下

げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

4月12日～18日の製品スポット市況は、4月5日～11日平均と比べ、海上・ガソリンの横ばいと先物・ガソリンの値上りを除いて、他の油種・取引で値下がりした。

直近週(4/12～4/18)の陸上スポット価格平均値は、前週(4/5～4/11)比で、ガソリンは1.6円の値下がり、灯油は1.7円の値下がり、軽油は2.0円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(4/12～4/18)に、前週(4/5～4/11)比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.7円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.3円の値上がり、灯油は1.2円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (4/12～4/18)	前週 (4/5～4/11)	前週比
	レギュラー	78.8	80.4
灯油	78.8	80.5	▼ -1.7
軽油	79.0	81.0	▼ -2.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (4/12～4/18)	前週 (4/5～4/11)	前週比
	レギュラー	79.3	76.0
灯油	79.3	80.5	▼ -1.2
軽油	91.3	91.9	▼ -0.6

※上記価格は税抜き価格

参考値 (4/12～4/18実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.6	▲ 3.3	▲ 0.9
灯油	▼ -1.7	▼ -1.2	▼ -1.4
軽油	▼ -2.0	▼ -0.6	▼ -1.3
A重油	▼ -2.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月18日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円安の173.5円、軽油も同0.8円安の153.2円、灯油は18%ベースで同4.0円安の2,058円(1%ベースでは同0.3円安の114.3円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は3週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは10都府県、横ばいは3県、値下がり34道府県だった。全国最安値は宮城県の167.5円、その次は愛知県の168.5円であった。他方、最高値は長崎県の182.7円だった。最も値上がりしたのは徳島県(前週比0.8円高)で、横ばいは広島県など4県、最も値下がりしたのは群馬県(前週比2.3円安)だった。

次回調査時(4/25)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/18)	前週 (4/11)	前週比	直近高値
レギュラー	173.5	174.0	▼ -0.5	08/8/4 185.1
灯油	114.3	114.6	▼ -0.3	08/8/11 132.1
軽油	153.2	153.7	▼ -0.5	08/8/4 167.4

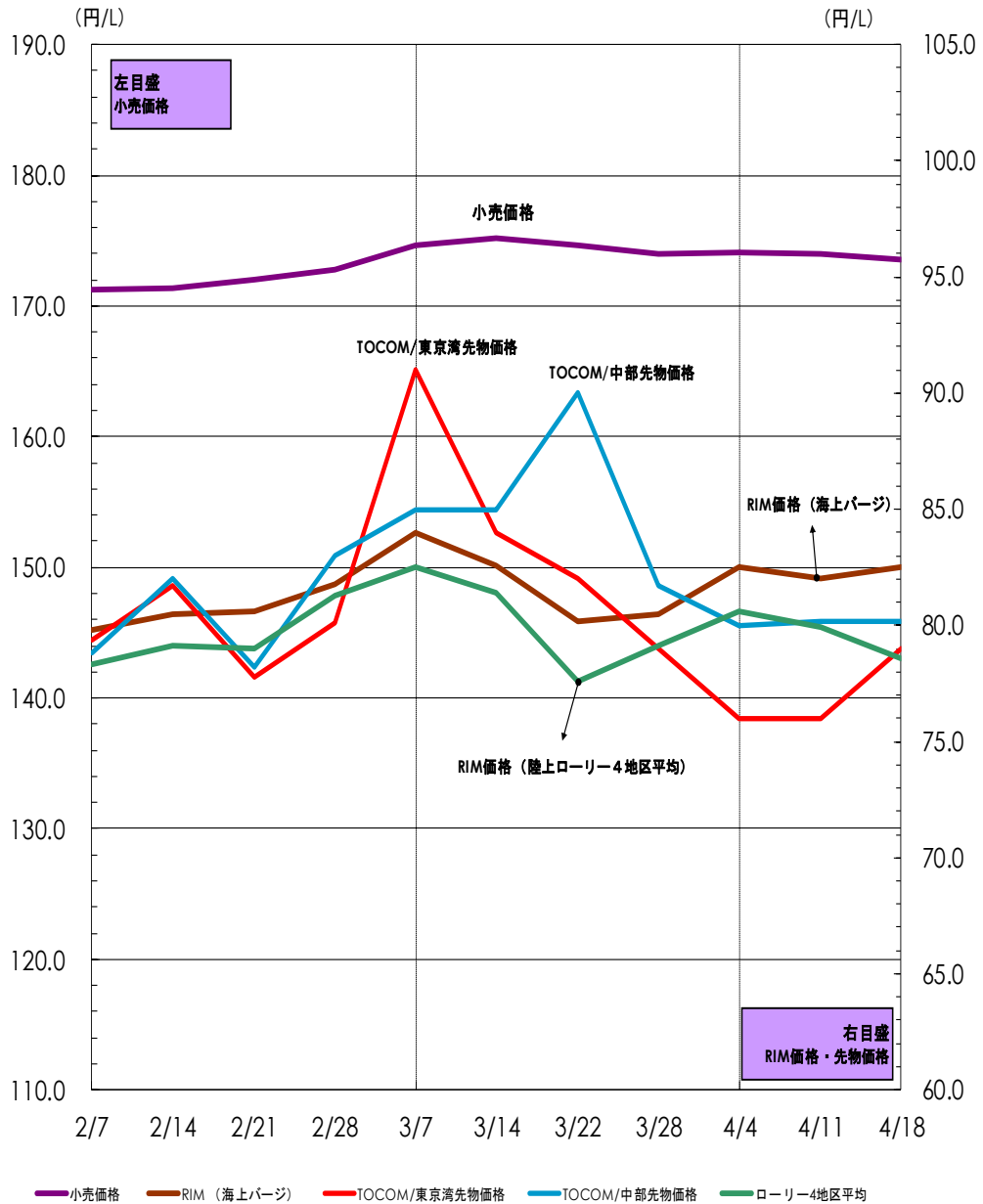
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/2/7 ~ 2022/4/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2022第5号)の公表は、4/29(金)14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。